

2026.1.17(土)実施
2026.1.18(日)初稿
2026..()修正
富田健太郎

地理総合・地理探究

第1問 (配点13点: 4点 他3点) 【乾燥・半乾燥地域の生活文化】 地理総合と共に問題

問1 ④ 【基本】

- ④誤 なつめやしの実は工業用ではなく、食品である。なつめ・デーツ。
①正 乾燥地域の伝統的な住居は日干しレンガ。
②正 窓が小さいことで砂などが入りにくく、気温の変化も少なく、暑さをしのげる
③正 なつめやしは乾燥地域の椰子の代表である。

問2 ⑤ 【基本】

- A イ←淡水化施設 サウジアラビアやUAEなどで利用されている
B ウ←高山・氷河 テンシャン山脈は標高も高く、海につながらない内陸河川もある

C ア←外来河川はティグリス川・ユーフラテス川があたる

問3 ② 【易】 ジャガイモ、アルパカなどとともにアルプスの高山気候と判断できる

- ② ラパス 年較差がややあり、平均気温も10度を下回ることがあるので、緯度がやや高めの都市
① ボゴタ 赤道に近いため、年平均気温はもう少し高い
③ アントファガスター 寒流の影響で海岸砂漠と考えられる
④ 雨蔭砂漠の地域で降水量は少ない

問4 ③ 【基本】

- X 牛←インドを中心にドットがある
Y 羊←モンゴル・内モンゴル・中央アジアなど半乾燥地域にドットがある
カ カシミヤの利用がふえている cf. カシミアヤギ
キ 家畜の増加は砂漠化対策にはならぬ、逆効果

■地理総合の大問。4問とも基本的な内容となっている。最初の問い合わせとしては取り組みやすく、受験にとっても安心感のある大問だったと思う。

第2問 (配点12点: 各3点) 【津軽平野とその周辺地域の地域調査】 地理総合と共に問題

問1 ② 【基本】 地勢の状況から各農業がどこで行われているかを考える

- 米 ア←岩木川下流の低湿地などが中心→つがる市・五所川原市で多い
野菜 ウ←海岸の砂丘地域などで行われる→つがる市で多い
果実 イ←山麓で栽培が多い →弘前市で多い

問2 ② 地図・文章をよくみて判断する

- カ ため池は谷を利用して作られている→谷口を堰き止めている
キ 水田の地域はほぼ平坦と考えると浸水の深さと考えられない。ほぼ並行な線のため、浸水までの時間と考える

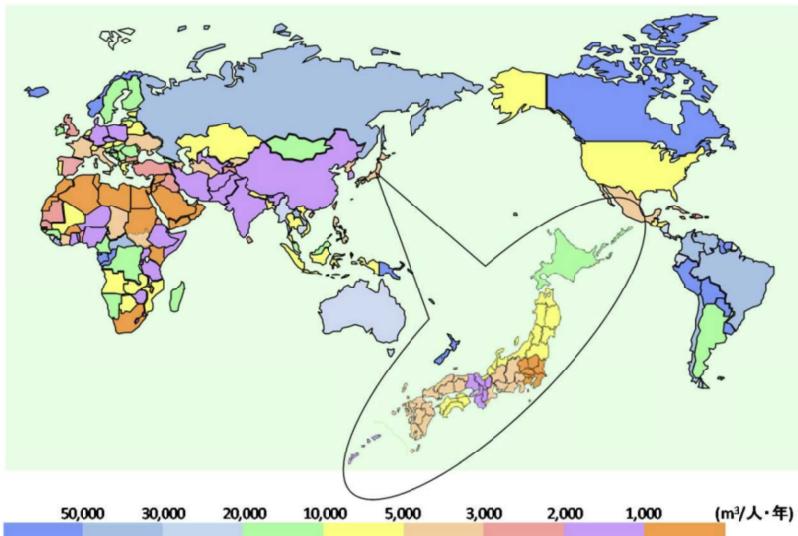
- 問3 7 ④ 【易】三角州の地形図演習でつかう十三湖。これはできる。
- ④誤 地理的表示保護制度によって、ブランド化でき高価格を期待できる
 ①正 汽水とは淡水と海水がまじったもの
 ②正 55年をみると沿岸が変化している。干拓が行われた。
 ③正 小さい個体を漁獲しないことで、資源を守っている。
- 問4 8 ② 【易】リンゴは秋に収穫する果実。
- A チリ←南半球で北半球(米国)と収穫期が逆
 B 日本←秋以降増加している
 サ タイ・インドネシアの1.8からタイ・ベトナム・シンガポールの4.8に増加

■昨年と同じく地域調査は第2問になり、地勢を見ながらの問い合わせ、地形図を活用した問い合わせなど4問となつた。資料を注意深く読み取ることで答えが導き出される。判断に迷う問い合わせもなかった。

第3問 (配点21点: 11 13 14 4点、他3点) 【世界の自然環境と自然災害】

- 問1 9 ④ 【基本】大地形の基本問題。地図帳の表現方法も見てほしい。
- ア C←横線がみるが、中央海嶺にあるトランフォーム断層のあと
 イ A←中央に黒い縦の筋は海溝の深い部分
 ウ B←点在しているものはホットスポットのあと
- 問2 10 ③ 【やや難】深く考えすぎると悩む。CO₂濃度が変動するのは植物の吸収があるから。
 緑の多い季節はたくさん吸収し、濃度が減少する。
 カ アラスカ←ハワイと同じ動きをしており、夏にCO₂を吸収する
 キ NZ ←自然の草地が年中あり、年中濃度が低い
 ク 植物
- 問3 11 ① 【基本】
- E サ←火山噴火に由來した土壤。関東ロームや根釧台地などに分布
 F シ←河川の氾濫に由來した土壤。河口の平野などに分布。
 G ス←山地や丘陵地に多い土壤。山地に分布。
- 問4 12 ③ 【基本】
- ③ チ←氷河によってできた湖沼。五大湖など
 ① タ←コケ類、トナカイからツンドラ地域
 ② ツ←鳥趾状三角州はミシシッピ州河口で見られる
 ④ テ←マングローブが見られるのは亜熱帯地域
- 問5 13 ⑤ 【やや難】水資源は水資源賦存量ともいう。
- L オセアニア←乾燥大陸のオーストラリアがあるため、水資源量は少ないが、人口が少ないため、1人あたりは多くなる
 J 南米←熱帯の降水量が多く、地域もヨーロッパよりも広いため、水資源量は多い。
 K 欧州←全体的にCfbの地域で降水量は南米よりも少ない。
- 水資源賦存量…水資源として、理論上人間が最大限利用可能な量であって、降水量から蒸発散量を引いたものに当該地域の面積を乗じて求めた値。

図表5 世界の一人当たりの水資源賦存量

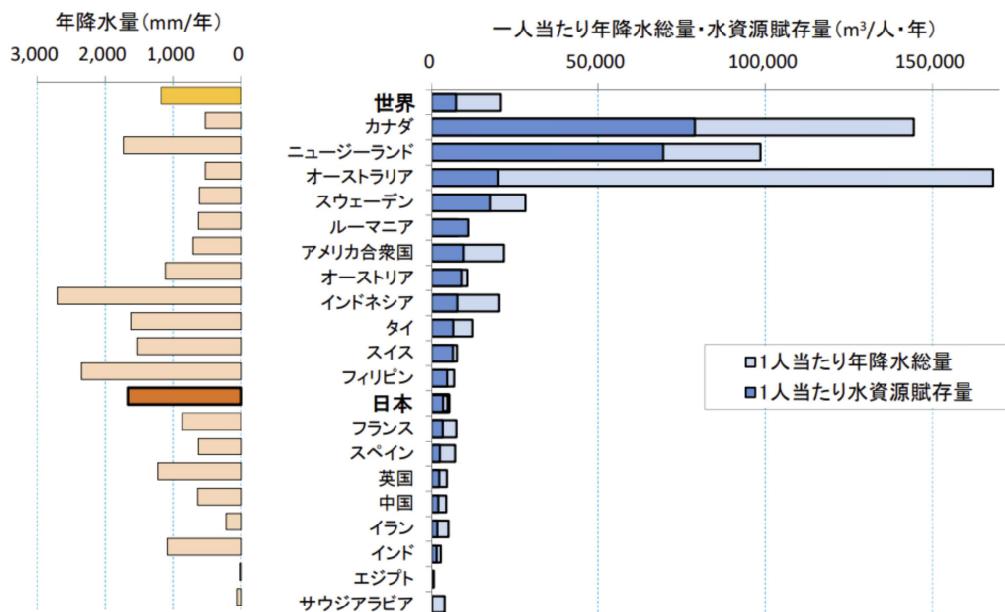


(注) 1. 一人当たり水資源賦存量は、「AQUASTAT」の[Total renewable water resources(actual)]を基に算出。

2. 「世界」の値は「AQUASTAT」に[Total renewable water resources(actual)]が掲載されている200か国による。

資料) FAO(国連食糧農業機関)「AQUASTAT」の令和4年9月アクセス時点のデータより国土交通省作成

図表4 各国の降水量等



(注) 1. 一人当たり水資源賦存量は、「AQUASTAT」の[Total renewable water resources(actual)]を基に算出。

2. 「世界」の値は「AQUASTAT」に[Total renewable water resources(actual)]が掲載されている200か国による。

資料) FAO(国連食糧農業機関)「AQUASTAT」の令和4年9月アクセス時点のデータより国土交通省作成

「令和5年版 水循環白書 参考資料」https://www.kantei.go.jp/jp/singi/mizu_junkan/pdf/r05_sankou_siryou.pdf
日本は降水量が多いが、河川が短く急なため、すぐに海に流出するため、利用できる水資源が少なくなる

問6 [14] ④ 【やや難】問題文をよく読み、ヒントを読み取る必要がある

Q 融雪型火山泥流←噴火の熱に誘発されることから、噴火口に近い所から発生すると考える。

P 土石流←火山灰や土砂が混じるが、火山灰は火口から離れた場所に堆積することから、噴火口から離れたところから発生すると考える

マ 東側←火山灰は偏西風に流されることが多い。

■地理総合・探究では自然環境と災害がテーマとなっている。演習問題でも必ず災害は問われている。

[14]で火山災害が出題されたが、判断の根拠が乏しく、解答は迷ったのではないか。また、[13]においても、水資源量の説明が少なく、河川・湖沼の他降水量も含めるのかなど、考え方が難しく、判別が迷ったのではないか。その他の問題は標準的な知識で答えられた。

第4問 (配点17点: [16] [19] 4点、他3点) 【衣料品類の生産、流通、再利用・再資源化】

問1 [15] ③ 【基本】亜麻はリネンのこと。シーツなどに使われ、吸収・発散に優れる。

ア 綿花 ←インド・中国・アメリカなどで多い

シ ←ブレンテーション作物のひとつ

イ ジュート←インド・バングラデシュでほとんどを占める

ア ←低湿地で栽培

ウ 亜麻 ←残り ヨーロッパに多い

ビ ←混合農業

問2 [16] ② 【基本】大阪南部は有利か?

③④ 編織業 ←大阪が1位 泉州地域は様々な繊維産業が発達

④ 2021年 ←事業所の数が大きく減少している

①② 化学繊維→岡山・愛知 石油化学をはじめ、化学的に製造

問3 [17] ① 【基本】

③ 中国 ←輸入額が最大

② ベトナム←輸入額が中国に次いで多く、指数も大きい cf. ポストチャイナ

① バングラ←指数は大きいが、まだ輸入額が少ない

④ 韓国 ←輸入額が小さく、また指数も小さい

問4 [18] ① 【基本】

E 都市中心部←飲食料品小売業がもっとも多く立地する。ロードサイドが最も多いとは考えにくい

F ロードサイド

キ 自動車←ロードサイドの割合が多い

カ 衣料品

問5 [19] ④ 【基本】使用済みのものは先進国から発展途上国へ流れことが多い

J 輸出←先進国を中心多い

K 輸入←発展途上国、特にアフリカ南部に多い

サ 国際的なアパレルメーカーはEUなど先進国を中心に本社を置く

■全体的に標準的な問題であった。判断に迷う問題も少なかったと思う。18の商業立地の問題は普段、車で買い物に行く人にとっては難しかったかもしれない。小売業の店舗数は基本は人口に比例する。しかし、衣食住に関係するものほど、人口に関係するため、ロードサイドが中心と考えにくい。逆に、自動車販売はロードサイドが多く、ライバル店が近くにあることが多い。

第5問 (配点21点 : 23 25 4点、他3点) 【人口と都市】

問1 20 ④ 【標準】

- ③ アフリカ←穀物生産量が最も少ない
- ② 北米 ←穀物生産量が最も多い
- ① 欧州 ←人口密度の変化がもっと小さい=人口増加が少ない
- ④ 南米 ←人口密度の変化がアフリカの次に大きい=人口が増加

問2 21 ② 【標準】中東産油国の外国人労働者問題は近年よく出る

- ア UAE ←移民が圧倒的に多い
- ウ 島印度 ←移民が少ない
- イ フランス←移民が多いが、国外居住者も一定数いる

問3 22 ⑤ 【易】

- A マリ ←人口が増加している→ピラミッド型を継続 ク
- B メキシコ ←人口増加のあと近年は低下→ピラミッドから釣鐘 キ
- C フィンランド←最も人口増加率が低い→釣鐘から壺に近い カ

問4 23 ② 【難】NYは企業が様々な企業が集まるが、デトロイトは自動車関連の製造が多い。

- NYを起点に考えて、管理部門が中心となっているものを選ぶ。
- サ 管理・専門←E・Fともにシよりも多い
 - シ 生産・輸送
 - E NY ←管理・専門が多い
 - F デトロイト←デトロイトは工場が多く、生産部門が多いが、周辺地域は逆に生産部門が減る？

問5 24 ③ 【標準】

- タ 通勤・通学時間←首都圏・近畿圏が高位
- チ 1次産業割合 ←東北・北海道・九州・四国で高位
- ツ 持ち家率 ←北陸・大都市圏郊外が高位で東京・大阪が低位

問6 25 ② 【易】この都市はいったいどこ？

- ②誤 人口集中地区の面積は広がったが、人口の増加は少ないので、人口密度は低下している
- ①正 大型店舗が立地している
 - ③正 主要道路沿いに大型店舗が立地している
 - ④正 コンパクトシティの定義と一致している

■探究形式というが、ポスターみたいなものを作って、読み取りに時間がかかるような形式ではなかった。センター試験からあるように、統計・図版を使ったオーソドックスな形式で作られていた。その中で23は解答の考え方方が難しい。周辺地域のとらえ方が曖昧で判断がつかなかったのではないか。

第6問 (配点17点 : 26 30 4点、他3点) 【ドナウ川・ナイル川・メコン川流域の地誌】

問1 26 ② 【良問】河川の流域の気候を考えながら、判例を当てはめていく

- ア ドナウ川→流域全体が温帶
- ウ ナイル川→源流は湿潤の熱帯、中下流は乾燥帯の外来河川
- イ メコン川→源流はチベット高原のツンドラ(寒帯)から温帶を経て、河口は熱帯

問2 [27] ① 【易】宗教の頻出の問題

- カ プノンペン(カンボジア)←トウクトウクやバイクなど
- キ ハルツーム(スーダン) ←イスラム教のモスク
- A プノンペン←内戦・経済特区
- B ハルツーム←石油資源

問3 [28] ④ 【難】船舶と自動車の判別が難しい

- シ 上流←上流がドイツのため、貿易量はドイツの方が多いと考えられる
- サ 下流
- D 自動車←鉄道貨物が一定量あることから、周辺は広く道路網が発達していると考えると、船舶よりも多いと考えられる

E 船舶

問4 [29] ② 【標準】図表を丁寧に読み取る

- ②誤 流域と国土の重複と水資源の依存度は関係がない。重複が大きいくにでも依存度は高い。
- ①正 70%以上から30%未満まで混在している
- ③正 中国がダムを建設し、下流の国と問題となっている。
- ④正

問4 [30] ④ 【易】

- J ドナウ川←GDPが最も高い
- K メコン川←GDPの伸び率が最も高い
- L ナイル川←GDPが最も低い
- X 単一通貨の導入はEUのみなので、2つの地域に共通するのは国際分業

■特定の地域ではなく、河川流域の地誌というのは近年はなかった。自然・文化・産業・経済と幅広く問われていた。 28 は判断の根拠が難しかった。

■地理総合・地理探究となって2年目の試験。初年度はやや易しめで取り組みやすかったため、2年目は難易度が上がると思っていた。しかし、内容は資料点数も多くなく、従来のセンター試験に似た問題が多かった。また、第1問・第2問の地理総合の分野の問題は易しい問題が多く、受験生にとっては不安なく取り組めたのではないだろうか。ただ、いくつかの問題で、説明不足であったり、判断の根拠が乏しい問題があり、高得点は意外にでないのかもしれない。雨温図の問題は珍しく1つの雨温図しか提示されない形で珍しかった。地理の学習をしっかりしているものにとっては、点数が取れる問題が多かったと思う。平均点は昨年よりも上がると考えられる。

■地理Bおよび地理総合・地理探究 平均点の推移

共通テスト

新課程

								26年	25年	24年	23年	22年	21年
								57.55	65.74	60.46	58.99	60.06	

センター試験

20年	19年	18年	17年	16年	15年	14年	13年	12年	11年	10年	09年	08年	07年	06年
66.35	62.03	67.99	62.34	60.10	58.6	69.7	61.9	62.2	66.4	65.11	64.45	66.36	58.41	65.1
05年	04年	03年	02年	01年	00年	99年	98年	97年	96年	95年				
70.2	62.1	55.0	66.3	63.6	58.2	62.3	77.2	67.3	62.8	72.4				